

緊急学習会

橋下さんで大丈夫？

大阪の防災、安全・安心のまちづくり

東海・東南海・南海地震が起きる確率は30年以内に60～87%と推定されています。

地震や津波は防ぐことはできませんが、できることから対策を講じれば、最悪の事態は避けられます。

これからの大阪の防災、街づくりを一緒に考えましょう。

日時 6月26日(日)午後1時半～

場所 天満研修センター

講演

①「大阪の防災、安全・安心のまちづくり」

塩崎賢明さん (神戸大学教授)

②「橋下知事がすすめる大阪都市のあり方」

森裕之さん(立命館大学教授)

M9.0地震想定

咲洲庁舎機能喪失

津波5.5メートル 地階のインフラ設備水没

東日本大震災を教訓に「M9.0の東海・南海地震が発生した場合、大阪の津波到達時刻は約30分、津波の高さは約5.5メートルと想定されている。大阪府は、この想定に基づき、大阪府庁舎（旧WTCビル）に、大阪市や港区に移転を前提とした臨時庁舎（仮庁舎）を建設し、M9.0の津波発生時に、大阪府庁舎（旧WTCビル）は、一部機能喪失を想定している。臨時庁舎は、水没が心配される地下にあるため、機能喪失を免れることができない。府は、本庁舎の復旧も視野に、防災対策の検討を進めている。

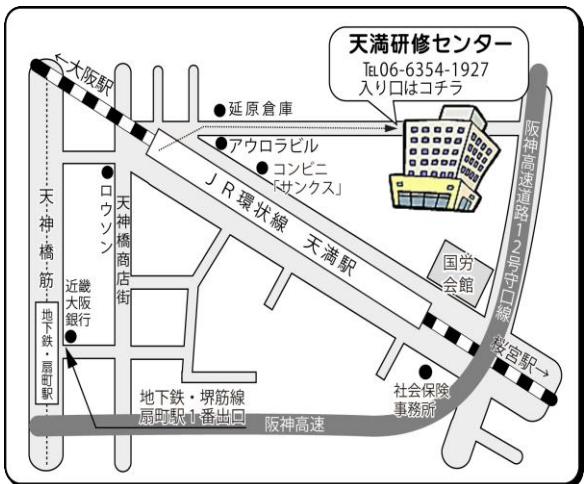
府は、この想定に基づき、大阪府庁舎（旧WTCビル）に、大阪市や港区に移転を前提とした臨時庁舎（仮庁舎）を建設し、M9.0の津波発生時に、大阪府庁舎（旧WTCビル）は、一部機能喪失を想定している。臨時庁舎は、水没が心配される地下にあるため、機能喪失を免れることができない。府は、本庁舎の復旧も視野に、防災対策の検討を進めている。

橋下知事は18日、阪神2.5の津波大阪府庁舎に、災害のコントロールがなされるまで、大規模な津波は、M9.0の津波に匹敵するものと想定している。従来は、M9.0の津波発生時の想定は、5.5メートルの津波が想定されていたが、M9.0の津波発生時の想定は、5.5メートルの津波が想定されていることが分かった。津波発生時の想定は、5.5メートルの津波が想定されていることが分かった。津波発生時の想定は、5.5メートルの津波が想定されていることが分かった。津波発生時の想定は、5.5メートルの津波が想定されていることが分かった。

津波災害想定図

※マグニチュード9.0の東南海・南海地震の場合

津波の高さは約5.5メートルと想定されている。大阪府庁舎（旧WTCビル）は、一部機能喪失を想定している。臨時庁舎は、水没が心配される地下にあるため、機能喪失を免れることができない。府は、本庁舎の復旧も視野に、防災対策の検討を進めている。



JR天満下車2分、地下鉄扇町下車7分

主催 府民要求連絡会 06-4800-8475
大阪市対策連絡会議 06-6268-3970 大阪民医連 担当 後